



〔海の状況 (5/16~6/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年並み (平年差±0.5℃) から神子平年よりはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて概ね平年並み (平年差±0.5℃) から平年よりやや高め (平年差0.5℃~1.0℃) の間で推移した。(図2)

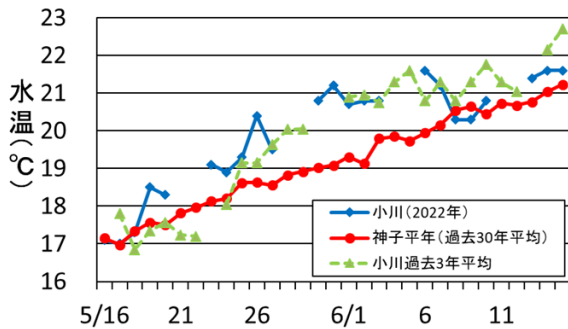


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

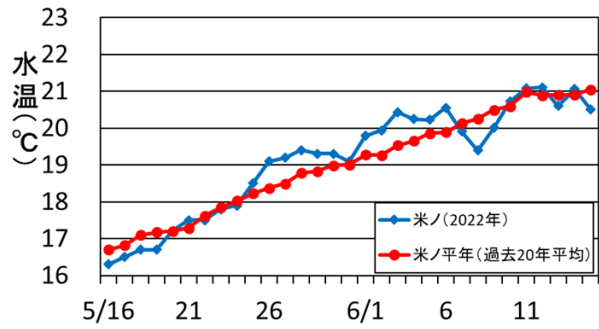


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：5月〕

5月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸西部で16℃~と前年より高かった。水深50 mでは、若狭湾沿岸で14℃~16℃の規模が前年より小さかった。水深100 mでは、若狭湾沿岸で12℃~14℃の規模が前年より小さかった。水深200 mでは、若狭湾沖で4℃以下の規模が前年より小さかった。(図3)

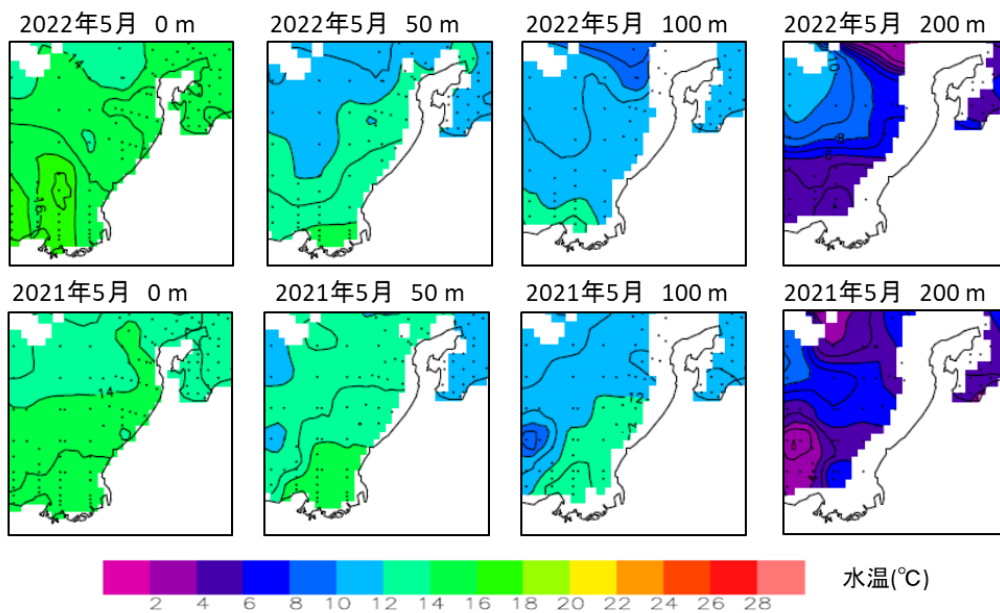


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

大型クラゲ情報

長崎県での初確認は過去4年間6月でしたが、今年はまだ確認されていません。

福井県での確認情報も今のところありませんが、引き続き大型クラゲの動向を注視していきます。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

〔県内の漁模様：5月〕

2022年5月の県内の総漁獲量は1058 tで、前年同月を200 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は659 tで、前年同月を226 t上回った。ブリ類、マダイは大きく上回ったが、アジ類、サバ類は大きく下回り、アオリイカ、スルメイカ等も下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は309 tで、前年同月を20 t上回った。アカエビ、その他エビ等は上回ったが、ホタルイカ、その他カレイ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は89 tで、前年同月を45 t下回った。スルメイカが大きく下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(5月)

定置網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
マイワシ	112	1,811	1,805	-1,699	-1,693
ウルメイワシ	16	683	109	-667	-93
カタクチイワシ	1,984	8,433	5,385	-6,449	-3,401
アジ類	34,792	62,987	117,203	-28,195	-82,410
サバ類	8,313	43,574	20,878	-35,261	-12,565
マグロ類	2,216	3,701	3,677	-1,485	-1,461
カツオ類	2,043	183	1,075	1,860	968
ブリ 銘柄計	416,029	137,803	625,547	278,226	-209,518
(ブリ)	135,305	87,273	184,969	48,033	-49,664
(ワラサ)	181,036	11,129	106,459	169,907	74,577
(ハマチ)	32,889	6,591	32,013	26,298	876
(ツバス)	66,798	32,810	302,085	33,988	-235,287
ヒラマサ	3,290	4,923	5,286	-1,633	-1,996
シイラ	10	8,752	919	-8,742	-909
トビウオ	49,111	56,803	50,911	-7,692	-1,799
マダイ	26,845	5,270	20,566	21,575	6,279
クロダイ	2,962	2,108	2,916	854	46
スズキ	8,080	9,917	12,786	-1,837	-4,706
ヒラメ	2,612	1,288	1,978	1,324	634
フグ類	24,004	6,712	33,896	17,291	-9,892
スルメイカ	497	5,396	11,612	-4,899	-11,115
アオリイカ	2,745	11,898	3,285	-9,153	-540
ケンサキイカ	15,940	18,233	8,557	-2,293	7,383
コウイカ	2,794	4,688	4,967	-1,894	-2,172
その他	54,345	37,883	61,411	16,462	-7,065
合 計	658,740	433,047	994,746	225,694	-336,006

底びき網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
キダイ	2,490	2,888	2,264	-398	226

底びき網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
アカガレイ	50,586	46,239	90,494	4,347	-39,908
その他カレイ	13,134	14,624	23,073	-1,490	-9,939
フグ類	4,262	3,150	2,608	1,113	1,655
ハタハタ	12,221	6,182	12,298	6,039	-77
ホタルイカ	91,437	101,685	173,824	-10,248	-82,387
タコ類	4,591	5,026	7,037	-435	-2,446
アカエビ	94,031	83,514	70,836	10,518	23,195
その他エビ	18,411	7,758	7,132	10,653	11,280
その他	18,332	18,305	32,203	27	-13,870
合 計	309,497	289,370	421,768	20,127	-112,271

釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
ブリ類	2,515	254	5,257	2,261	-2,743
マダイ	2,220	1,893	3,736	326	-1,516
キダイ	6,624	6,297	5,199	327	1,424
アマダイ	5,080	5,413	5,773	-333	-693
ヒラメ	2,581	1,100	3,005	1,481	-423
フグ類	1,590	320	300	1,270	1,289
メバル類	2,805	2,141	3,590	664	-784
スルメイカ	26,020	73,912	108,248	-47,892	-82,228
ケンサキイカ	992	2,105	923	-1,113	69
コウイカ	1,593	2,587	3,790	-994	-2,198
タコ類	15,400	21,563	21,144	-6,163	-5,743
その他	22,050	17,354	34,307	4,696	-12,257
合 計	89,469	134,939	195,272	-45,470	-105,803

底びき網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
合 計	1,057,706	857,356	1,611,786	200,350	-554,080

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：5月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：5月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：5月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：5月中旬～6月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…ガンド9.2 t、フクラギ・コゾクラ6.7 t、ブリ4.8 t、フグ類4.5 t、マアジ3.6 t
 京都府…定置網…カタクチイワシ7.8 t、ブリ類4.0 t、マアジ2.1 t、サワラ類1.3 t、ケンサキイカ1.3 t
 兵庫県…定置網…マアジ301 kg、シロイカ21 kg、トビウオ16 kg、マルゴ15 kg、スズキ13 kg、サワラ8 kg
 鳥取県…まき網…28.7 t、マアジ22.5 t、ウルメイワシ2.9 t、ブリ類0.7 t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

栽培漁業センターにおける増養殖技術について

福井県水産試験場では、本年4月に海洋研究部に所属し主に増養殖関連の研究開発を担ってきた技術開発グループを栽培漁業センターに移管しました。栽培漁業センターは、これまで種苗生産技術を中心とした育成技術グループで運営してきましたが、新たに技術開発グループを加えて種苗の生産に関する技術のみならず増養殖に関連する技術を担うことになりました。今回は、リニューアルした栽培漁業センターについてご紹介します。

育成技術グループは、放流用種苗としてバフンウニ、ナマコ、ヒラメ、アユの種苗生産を行っています。このうち、ヒラメとアユについては一部を中間育成用として漁業団体に供給しています。また、養殖用種苗としてトラフグ、マハタ、マダイの種苗生産を行っています。この中でマハタは令和元年から種苗生産事業をスタートした新しい魚種で、トラフグに並ぶブランド養殖魚種として期待されています。マハタはふ化からほぼ1年をかけて種苗としては大きく（全長約20cm、平均体重250g）育てて供給するため、全国の公設種苗生産機関としては先進的な閉鎖循環飼育システムを採用しています（関連するトピックスは本誌にも掲載）。育成技術グループでは、毎シーズンの技術改良や機器導入を行い良質で健全な種苗提供に努めています。



新たな養殖魚種 マハタ

今年度から栽培漁業センターで業務を開始した技術開発グループは、アカウニ種苗生産、ウニ類陸上養殖、イワガキ種苗生産・養殖の技術開発を行っているのに加えて、磯根資源に有用な海藻の増殖技術、養殖魚の魚病対策等を行っています。栽培漁業セン



アカウニ



イワガキ

ターには各種の育成施設や設備がそろっており飼育実験などに適していることから、増養殖に関する研究・開発について効果的に進められると考えており、これまでも増して大きな成果が得られるよう努めていきたいと考えています。

さらに、ウニ類の飼育施設や魚病検査、各種実験施設について隣接する水産試験場企画・先端研究室に移設し、研究環境の改善を図っています。

栽培漁業センターでは、より充実した技術開発体制を最大限に活用して、本県水産業の増養殖技術の発展に貢献していきたいと考えています。

（栽培漁業センター 矢野 由晶）



ウニ類飼育施設(育成研究棟)



魚病等実験施設(実験棟)